

# 香りをきく

☆香りをもつ植物を集めて、どのような香りがするか相手に伝えよう



# 香りをきく

## 1 活動の概要

植物の中には葉や茎、幹に香りを持つものが多く存在します。「香り植物分布図」を参考に、香りを持つ植物を集め、ビニール袋に入れます。集めた植物の香りは言葉で表現します。香りは視覚や触覚と違って内容を人に伝えるのは難しいですが、香りを人に説明し、どの植物の香りであるか当て合います。五感の中の嗅覚による自然にふれる活動です。

## 2 活動の目的

香る植物を探して回ることにより、たくさんの種類があるなどといった自然の多様性に気付かせるとともに、香りを身近なものに当てはめて表現するなどして自然の事物への興味と関心を高める。また、自然学校終了後にも更に身近な環境の自然を調べて回るといった意欲や態度を養う。

## 3 準備するもの

- (1) 香り植物分布図（各グループに1枚）
- (2) ワークシート（人数分）
- (3) 収集用のビニール袋（グループ×1枚以上）
- (4) クリップボード（人数分）（準備できなくても実施は可能）
- (5) ティーパック（人数分）

## 4 人数／場所／時間

- (1) 人数：1グループは6～8人程度
- (2) 場所：香り植物分布図の範囲内
- (3) 時間：120～150分

## 5 活動の手順

- (1) 興味と関心を高めます。

「植物は、花だけが香りを持つのではなく、葉や茎に香りを持つものもあります。香りを持つ植物は生活に深く関連しており、例えば、クロモジは和菓子を食べるときに楊子（ようじ）として使ったり、サンショウは香辛料として料理に使ったりします。」

- (2) 香り植物分布図やワークシートを配り、やり方を説明します。

- ①「香り植物分布図や樹木にかかっているプレートを参考に、香りを持つ植物の葉や茎を集めてください。集めた植物はビニール袋に入れましょう。」
- ②「持ち帰った植物はどのような香りがするのか、『～のような』『～に似ている』のように言葉で表現します。」

- (3) 安全指導を行い、活動範囲や活動時間を説明して、活動を始めます。

「活動場所は、香り植物分布図の範囲内です。」「植物を集める時間は60～90分です。」

「各グループでどの植物から見ていくかを相談して、決まったグループから出発して下さい。」

(4) 活動を振り返ります。

- ①「帰ってきたグループから、持ち帰った植物はどのような香りがするのか、『～のような』『～に似ている』のように言葉で考え、ワークシートに記入しましょう。」
- ②「どんな植物を発見できたか、どんな香りがしたかを何人かに発表してもらいます。」
- ③「葉や茎の香りを嗅ぐ機会は滅多にないことだと思います。『こんな香りの確かめ方があるんだ』という参考になったと思いますし、実際に見て、触って、においを嗅ぐことで、植物を身近に感じ、名前も覚えやすかったのではないかと思います。興味のある人は、家に帰ってから付近の植物で香りをきくを楽しんでみてください。」

(5) 匂い袋の作成

- ①「最後に、今回の活動になかった2つの植物（カツラとフジバカマ）を紹介します。」
- ②2つの植物を紹介します。
  - ・カツラ：葉はハート形。落葉（黄色）は香ばしい（甘いキャラメルのような）香り。
  - ・フジバカマ：香りがする植物として百人一首に登場。元号“令和”の由来。
- ③「どちらか一つ好きな方を選んでティーパックに入れ、家に持ち帰って香りを楽しんでください。」

(6) 活動した感想を書きます。

★南但馬自然学校に生育する代表的な香り植物（香り植物分布図に掲載）

樹木名	形状	場所	利用	その他
アカマツ	常緑針葉高木	全域	建築材	針葉系の香り
アブラチャン	落葉低木	全域	燈油	果実は油っぽい
カラスザンショウ	落葉高木	全域		大径木、カラスアゲハが集まる
クサギ	落葉低木	雨乃宮池	若葉を食用	くさい木からクサギ、果実を染料
クスノキ	常緑広葉高木	クスノキの館	樟脳（防虫剤）	カンフル剤、街路樹
クロモジ	落葉低木	全域	つまようじ	香料としても利用
サンショウ	落葉低木	全域	香辛料	木の芽、材はすりこぎとして利用
シキミ	照葉小高木	全域	線香、抹香	仏前に供える
スギ	常緑針葉高木	全域	建築材	針葉系の香り
ドクダミ	多年草	全域	薬用	湿った土地
ヒノキ	常緑針葉高木	全域	建築材	針葉系の香り
マツカゼソウ	一年草	全域		シカの不嗜好、ミカン系の香り
ヤブニッケイ	常緑広葉高木	くま、たぬき	防風林	ニッキの香り、シナモンに似る
ヤマコウバシ	落葉低木	全域	受験の御守り	ショウブの様な香り

★南但馬自然学校に生育する代表的な香り植物（香り植物分布図に掲載無し）

樹木名	形状	場所	利用	その他
カツラ	落葉高木	芝生広場	香ばしい香り	
コシアブラ	夏緑小高木	くまコース、 けろトープ	天ぷら（食用） ウドの香り	
ネズ	常緑針葉高木	全域	ジンの香り	
ヘクソカズラ	多年生つる	全域	リース	全体に悪臭、ヤイトバナ
ホオノキ	落葉高木	全域	朴葉（ほおば）と して利用	葉に香り
モミ	常緑針葉高木	全域	パルプ材	針葉系の香り

## 6 指導上の工夫と留意点

- (1) ワークシートでは5種類集めるようになっていますが、それ以上集めてもかまいません。
- (2) 植物の中には葉や茎、幹に香りを持つものが多く存在することがわかればよいので、植物名がわからなくてもかまいません。
- (3) 香りを表現しにくい子どもには、生活経験から「～のような」「～に似ている」など、他のものの香りと比べたり、「ツーン」「プーン」など感じたままを音にするようアドバイスしましょう。
- (4) 自然に対するローインパクト（自然に与える影響を最小限にとどめる）の精神を説明し、必要以上に植物を傷つけないよう指導しましょう。

## 7 安全上の留意点

- (1) カエンタケやツタウルシなど有毒植物やトゲのある植物について手で触らないよう事前に注意喚起しておきましょう。
- (2) 服装は、帽子、軍手、長袖・長ズボン、運動靴の着用が必要なことを説明しましょう。
- (3) 活動範囲と活動時間をはっきりと説明しておきましょう。活動範囲に指導者を適切に配置しましょう。

## 8 まとめ

視覚に頼っていた自然とのふれあいが嗅覚を用いることで子ども達の感受性が高まるでしょう。

香りを相手に伝える活動をとおして、子ども達の言語活動の充実を図るよう努めましょう。

日常生活とのつながりを意識させるために、クロモジやサンショウ以外にも香り植物の葉や茎が日常で使用されている例を見つけさせるとよいでしょう。

集めたサンショウ、クロモジ、アブラチャン、ヤマコウバシなどの小枝を使って楊枝（ようじ）を作ってもよいでしょう。

### ◆◆ 各教科等との主な関連 ◆◆

<b>事前指導</b>	身の回りの自然（香る植物）について	<b>理 科</b>	季節と生物④ 生物と環境⑥
<b>自然学校</b>	自然（香る植物）にふれる活動	<b>国 語</b>	話すこと・聞くこと③④ 言葉の特徴や使い方⑤⑥
		<b>理 科</b>	「多様性や共通性の視点」「比較」 「関係付け」
<b>事後指導</b>	身近な自然（香る植物）を調べる活動	<b>理 科</b>	身の回りの生物③
		<b>特別の教科 道 徳</b>	「自然愛護」「感動、畏敬の念」

※（ ）内の○数字は、学年を示しています。

令和3年5月25日 改訂

南但馬自然学校アクティビティシート 平成29年

編者・発行 兵庫県立南但馬自然学校

〒669-5134 兵庫県朝来市山東町迫間字原 189

TEL 079-676-4731 FAX 079-676-4008

このアクティビティシートの様式は、(公財)日本教育科学研究所が発行するIOREシートを参考に作成したものです。

# 「香りをきく」ワークシート

はん  
班

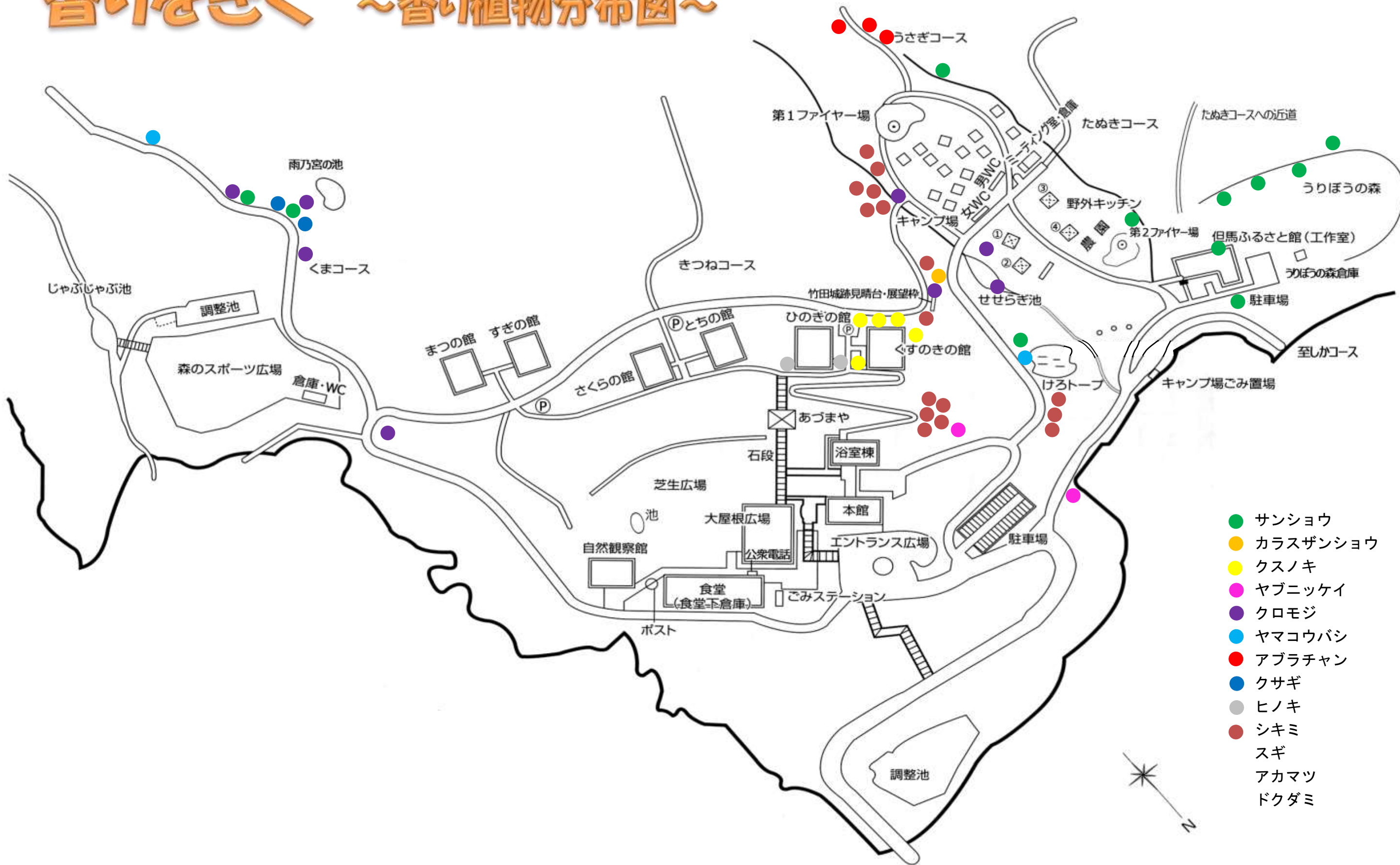
なまえ  
名前

かお しょくぶつ ぶんぶず しょくぶつ は えだ あつ  
香る植物の分布図をもとに、「植物の葉や枝」を集めましょう。

ちゅうい あつ しょくぶつ は えだ すこ と ぶくろ い  
(注意) 集めた「植物の葉や枝」は少しだけ取って、ビニール袋に入れましょう。  
5種類以上集めても構いませんが、花は取らないようにしましょう。

ばんごう 番号	どのような香り？ (例) 「～のような」「～に似ている」 「ツーン、プーンとした」など	しょくぶつ なまえ 植物の名前
1		
2		
3		
4		
5		

# 香いをきく ~香り植物分布図~



- サンショウ
- カラスザンショウ
- クスノキ
- ヤブニッケイ
- クロモジ
- ヤマコウバシ
- アブラチャン
- クサギ
- ヒノキ
- シキミ
- スギ
- アカマツ
- ドクダミ